

Virtual Tokyo: A new approach to 4th (and the final) year of Japanese Language Curriculum

Kaoru Ohta
Department of Asian Languages and Literature
University of Washington
kaoru@uw.edu

Virtual Tokyo って？

日本語学習者用に編集して『いない』日本で日本人の為に製作、編集された視聴覚教材、プリントメディアなどを利用し、日本にいらなくても日本にいるような学習環境を作り、いかにも仮想空間で日本を経験しながら日本語を学習することを目的にしたコース

各学習者は与えられたシチュエーション、課題の中で各自が「これを身につけたい」という文法、語彙、漢字を選択し、それをどのように身につけていくかを自主的に計画、実行、つまり

- 『消化』する学習態度から『消費』する学習態度：1年～3年（もしくは4年）レベルで行われている、決められた量の単語、文法、漢字を『消化』して、それをもとに学習していくというモデルではなく、学習者が自分が欲しい情報、興味を持っているものを『消費』する為に必要な単語、文法、漢字を身につけるという態度への変化
- 自立した学習：4年生のクラスを終えた学生にとっては、それより「上」、もしくは「先」の日本語学習は、教師の介在が減少、もしくは皆無になることを考え、自立した学習法、自立した学習者への移行を援助
- 教科書なり、教師が用意した補助教材（漢字リスト、単語リスト、文法リストなど）がない状況で、どんな学習が可能か、学習者用に編集されていない視聴覚、プリントメディアをどう利用すれば「自立した学習」ができるのかをコースを通して紹介

じゃあ、どんなことを実際にクラスで行ったのか、、、

- 学生が東京に留学することになったと仮想して、
 - 東京について、知っていること、知らないことを考える
 - 山手・下町について調べる

- 東京の交通手段について調べる
- 東京の有名ではない地域について調べる
 - 渋谷の再開発について
- 住むところを決めて、アパートを探す
- 住むことに決めた街について調べて、クラスメートを招待してイベントを企画する
- 留学することになった「早稲田大学」について
 - 早稲田の町
 - 早稲田の学生生活
 - キャンパス
 - サークル
 - 授業評価
 - OB/OG
 - 学部
- 道順の説明
- ワシントン大学の
 - U-district の紹介
 - キャンパス見所マップ作成
 - 学部の紹介
 - 授業評価
など

学生の学習度の評価は？

課題については、コンプライアンス（課題をしたか、しなかったか）についてのみという基準で評価。（実際には、してきた課題については、クラスの中の小グループで発表させ、グループメンバーにアンケート形式のメモを作らすことにより、してこないという学生が出ることを防げた）

週一度、5分から10分ほど学生に個人面談をし（その間、学生たちは、他の課題を行なっている）、学習状況、問題点の解消などをチェック。（学生には、学習ジャーナルをつけさせ、それを提出しておいてもらい、それについて個人面談をして、学習量が少ない学生や、問題を抱えている学生に、解決のヒントを与える）

学期中（10週間）2回、大きな自由課題のプロジェクトを課して、クラスで小グループの発表、その後、ビデオ（もしくはオーディオで）最終稿を提出。